

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【植物のからだのつくり】小項目【8. 栄養器官】

葉

葉（は）は、一般的には、**植物**がもっている、**光合成**や**呼吸**を行う**器官**のことをいう。扁平で、**葉脈**が張り巡らされており、葉の隅々まで行き渡っている。

葉柄：、**植物**において**葉**と**茎**を接続している小さな柄である。

葉身：葉の平らな部分をさしている。



茎

茎（くき）とは、**高等植物**において**葉**や**花**を支える部分である。内部には**根**から吸収した**水分**や**栄養素**（**ミネラル**など）を植物体の各所へ運び、**葉**で合成されたものを**光合成**できない部分へ運ぶためのしくみが備わっている。

節（ふし・せつ）：茎が一定間隔でふくらんで区切りとなっている部分。また、幹・茎から枝が生え出るところ。枝の付け根。枝を切り落とした跡。

節間（せつかん）：節と節との間

主茎（しゅけい）：種子から発生した茎のことをいう。

側芽（えき芽）：葉の付け根や、幹や茎の途中から出る芽のこと。**摘心**によって**頂芽**が切断されると、勢い良く**成長**をはじめめる。

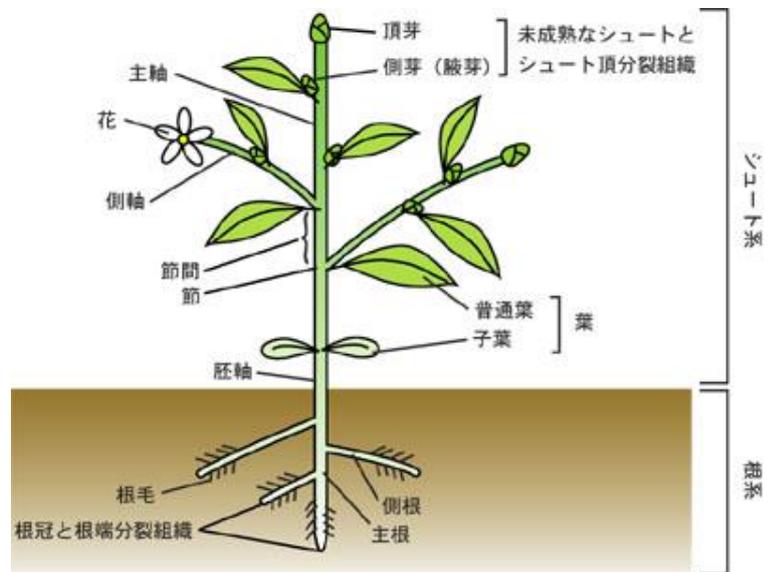
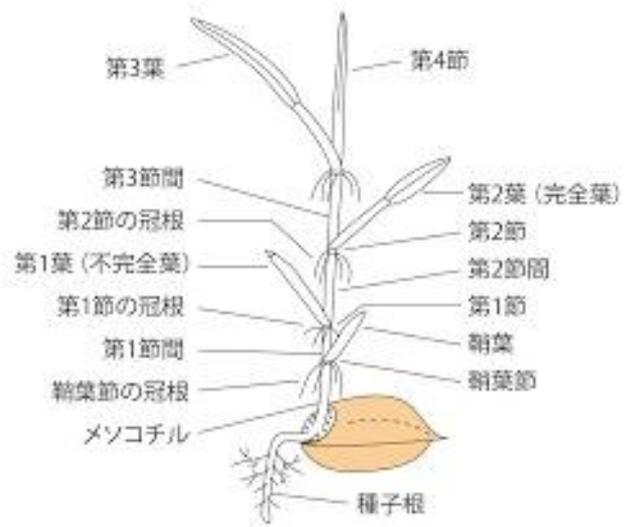
側枝：植物の中心となる主幹（しゅかん）や主茎から、側方に出る枝のこと。

分けつ：**イネ科**などの植物の根元付近から新芽が伸びて株分かれます。植物の根元付近や切り株から伸びた新芽を**蘖**（ひこばえ）と言うが、蘖が伸びて株が増える事を分蘖と言う。植物の栽培において、**稲・麦・サトウキビ**などでは成長時に分蘖して株が増えて大きくなるのを見越して、間隔を開けて苗を植える。

子葉：**種子植物**で**種子**の中の**胚**にすでにできている、**個体**として最初の**葉**である。

本葉：子葉のあとに出る葉である。多くの植物にとって、成長に関わる部位。植物にとって必要な栄養分を、根から吸い上げた水と、空気中の二酸化炭素から、光を利用して有機物を作り出す。

胚軸：**発芽**した苗の茎であり、**子葉**の下、**幼根**の上に位置している。



0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【植物のからだのつくり】小項目【8. 栄養器官】

根 **植物の器官**の1つである。地中・水中に伸び、水分や養分を吸収したり、呼吸したり、植物体を支える機能を持つ。

主根：種子の**胚(はい)**の**幼根**がそのまま伸びて太くなった**根**。周囲に**側根**を出す。

側根：主**根**から**枝**分かれして生ずる根。**枝根**(えだね)。**支根**。

根毛：**根**の**表皮細胞**が毛のように管状に外側に伸びたものである。根毛の機能は、土壌中に含まれる水や栄養分を集め、この溶液を根を通して植物の各部に行き渡らせることである。

根冠：**植物の根**の先端に現れる組織で、**根の先端を覆い**、**生長点**を保護する組織。